

日本薬学会での生涯学習活動について

内山 充

前回のコラムに続き、日本薬学会における薬剤師生涯学習に関する学会活動について報告いたします。

趣旨については多くの方々のご賛同を得、また松木会頭、入江薬学教育部会長及び高野医療薬科学部会長のお勧めもあり、生涯学習に関する学会活動を、当面は「薬学教育部会」の中で行うこととなりました。次年度（平成22年2月）より正式に部会内活動を始めますが、今年度は有志による準備委員会活動を行うこととなりました。

その第1歩として、去る10月29日に長井記念館ホールにおいて、「生涯学習活動に関するアナウンスの会」を開きました。学会における研究課題として「生涯学習学」を取りあげる上には、改めて関係者の間で、原則や方針を共有する必要があるところから、準備委員会として、生涯学習の目的・原則等の申し合わせ事項や、今後の活動計画の提案を行いました。提案の骨子は次のとおりです。

- 1) 薬剤師生涯学習の目的は、患者主体の医療に貢献するとともに、地域の保健衛生と生活改善に寄与することのできる薬剤師の養成にあるが、その過程として、倫理的、専門技術的に、常に最適な判断と行動のできる能力・適性の向上が必要である。
- 2) 生涯学習は、あくまでも自発的学習であり、かつ学習者を主体とする発想が基本原則である。大学教育との根本的な差異を認識する必要がある。また、学習は単なる知識・経験の集積ではなく、自ら設定した具体的目標（キャリア）の達成を目指すべきである。
- 3) 目標を明確にし、成果を確保するための学習方法として、CPDサイクル（自己査定、計画立案、学習参加、成果の評価、次の段階への反映）が推奨される。
- 4) 生涯学習活動の基本方針としては、薬剤師の自発的学習のための自己査定と計画立案を援けること、学び方と学習課題及びキャリアの選択のための目標（標準）を示すこと、質の高い生涯学習を選択できる様に、公正・的確な情報を提供すること、さらに学習成果の記録と、習得した専門的能力・適性を評価すること、そして優れた薬剤師職能を人々及び社会のために有効適切に生かす道を示すことなどを考えている。

これらの考え方は、当認証機構により認証された生涯研修実施機関（プロバイダー）の間では既に相互認識されており、それに沿う形での生涯研修・認定制度が行われていますが、今後は薬剤師の専門職能（professional）の向上のための「生涯研修」のほか、特定領域の専門性（specialty）を高める「特定領域研修」もふくめ、すべての生涯学習関係者が、それぞれの立場においてこのような基本的な観念のもとで共存共栄できる様に協力することにより、社会的に信頼される薬剤師生涯学習体制を築き上げて行きたいものです。

今年度の準備期間を経て、順次具体的な集会（フォーラムやシンポジウム）あるいは情報提供の活動を開始する予定です。多くの方々のご参加をお待ちします。

なお、上記の提案についてのご意見、及び部会活動への参加申し込みは、生涯学習活動準備会（psj-cpd@mbn.nifty.com）までご遠慮なくお寄せいただきたく、お願い申し上げます。

(2009.11.10)